式微	【しきび】	ひどく衰えること。
帰納	【きのう】	個々の具体的な事例から一般に通用するような原理・法則などを導き出すこと。
埋玉	【まいぎょく】	惜しい人材や美人の死を悼んでいう語。
薰育	【くんいく】	徳をもって人を教え導くこと。薰陶化育。しつけ。
油然	【ゆうぜん】	雲がさかんに起こるさま。また、ある思いや感情が突き上げるように起こるさま。
遺忘	【いぼう】	物事を忘れること。忘却。
鬼胎	【きたい】	心配すること。心中のひそかな恐れ。
歩武	【ほぶ】	足のはこび。足取り。
渴仰	【かつごう】	仏を深く信じ仰ぐこと。転じて、人や事物を尊び敬うこと。あこがれ慕うこと。
知命	【ちめい】	五十歳の異称。
路銀	【ろぎん】	路用の金銭。旅費。路費。路金。
赤誠	【せきせい】	少しのうそいつわりもない心。虚飾なくありのままの真実。まごころ。まこと。丹誠(たんせい)。赤心。丹心。
連枝	【れんし】	① つらなっている枝。② 兄弟のたとえにいう。多く、貴人の兄弟をいうのに用いる。
猶子	【ゆうし】	① 兄弟の子。甥(おい)。姪(めい)。② 兄弟、親戚、また、他人の子を自分の子としたもの。仮に結ぶ親子関係の子の称。
匠気	【しょうき】	意識して好評を得ようとする気持。芸術家などが技巧をひけらかそうとする気持。
不堪	【ふかん】	① その道の知識がないこと。心得がないこと。② ふとどきであること。③ 貧乏なこと。④ 田地が荒廃して耕作に適しないこと。
委蛇	【いい】	曲がりくねって長々と続くさま。いだ。
望洋	【ぼうよう】	遠くをながめること。転じて、広々として目当てのつかないこと。とりとめのないこと。また、そのさま。
牙保	【がほ】	売買の取次をして、その中間に立って利をかせぐこと。また、その人。仲買(なかがい)。がほう。ブローカー。
形勝	【けいしょう】	① 地勢や風景などがすぐれていることやそのさま。② 地勢が、敵を防いだり陣地を張るのに適しているところ。要害の地。
鼻祖	【びそ】	ある物事を最初に始めた人。元祖。始祖。
方寸	【ほうすん】	1寸(約3センチ)四方。ごくわずかな広さをいう。昔、心臓の大きさは1寸四方と考えられていたため、胸の中、心の意味。
大尾	【たいび】	① 大きいしっぽ。② まったくの終わり。最後。終局。結末。
存問	【そんもん】	安否を問うこと。訪ねなぐさめること。見舞うこと。慰問すること。
青史	【せいし】	歴史や記録のこと。
遜位	【そんい】	天子が位を退くこと。帝位をゆずること。
横恣	【おうし】	勝手気ままなこと。わがままなこと。また、そのさま。
玄黄	【げんこう】	① 天の色である黒と地の色である黄。また、天と地。② 黒色と黄色の幣帛。〔書経-武成〕③ 病気の馬。
非命	【ひめい】	天命でないこと。思いがけない災難で死ぬこと。

玉章	【ぎよくしょう】	立派な文章。
道破	【どうは】	はっきりと言いきること。
辺幅	【へんぷく】	外から見た様子。うわべ。外観。
拳拳	【けんけん】	ささげ持つさま。転じて、うやうやしく慎む様子。
北堂	【ほくどう】	① 昔、中国で、家の表座敷の北にある堂。主婦の居室。② 母または、他人の母をうやまってという語。母堂。
艶陽	【えんよう】	① はなやかな晩春のころ。② 若々しく美しいこと。
先考	【せんこう】	死んだ父。亡父。
柳營	【りゅうえい】	将軍のいる所。幕府。また、将軍（家）。
訟獄	【しょうごく】	訴訟を起こすこと。うったえ。
外連	【けれん】	① 芸の本道からはずれ、見た日本位の奇抜さをねらった演出。② はったりやごまかし。
倉卒	【そうそつ】	① 急なこと。突然なこと。にわか。だしぬけ。② あわてること。落ち着かないこと。忙しいこと。急いでいること。
拐帯	【かいたい】	① 人をだまして連れ去り、他に売ること。② 持ち逃げ。
靈雨	【れいう】	降るべき時に降る、よい雨。慈雨。また、不可思議な雨。
当路	【とうろ】	重要な地位にあること。そういう人。
管見	【かんけん】	狭い見識。
将星	【しょうせい】	① 名声に輝く大将や将軍。② 昔、中国で大将になぞらえた星
往昔	【おうせき】	過ぎ去った昔。いにしえ。
首肯	【しゅこう】	うなづくこと。もっともだと納得し認めること。
撮要	【さつよう】	要点をかいつまんで書きしるすこと。そのようにした書物。
応制	【おうせい】	天皇の命令を受けて詩歌を作り、たてまつること。応詔。
特立	【とくりつ】	① 他にたよったり、へつらったりしないで、自立していること。独立。② 衆にぬきん出て目立つこと。
宇内	【うだい】	天下。世界。
肅殺	【しゅくさつ】	厳しい秋気が草木を枯らすこと。
耳順	【じじゆん】	数え年六十歳。
丈六	【じょうろく】	像のたけが一丈六尺（＝約五メートル）ある仏像。座像では、その半分の高さの仏像。
尺一	【せきいつ】	1尺1寸（約33.3センチ）
間者	【かんじゃ】	敵方の様子をさぐる者。間諜（かんちょう）。まわしもの。スパイ。
比況	【ひきょう】	他のものくらべたとえること。
零星	【れいぼく】	書いたものの、わずかに残った切れはし。

妬婦	【とふ】	しっと深い女。やきもちやきの女。
周旋	【しゅうせん】	売買・雇用などで、仲に立って取り持ちをすること。
冊立	【さくりつ】	勅命によって皇后・皇太子などを立てること。
雷名	【らいめい】	世間にとどろき渡っている名声。
堂奥	【どうおう】	堂内の奥まった所。転じて、秘奥。奥義。
鉄腸	【てっちょう】	非常に堅固な心。容易に動揺しない強い心。鉄心。
尾籠	【びろう】	おろかなこと。ばかげたこと。ばか。
虎威	【こい】	権威あるものの威力。
普天	【ふてん】	大地をあまねく、おおっている天。天下。
出奔	【しゅっぽん】	逃げ出してあとをくらますこと。
警句	【けいく】	短い中に、物事の真理や奇抜なすぐれた考えを含ませた言葉。
牧民	【ぼくみん】	地方の人民を治めること。
符節	【ふせつ】	割符がぴったり合うように二つのものがぴったり一致することのたとえ。
草創	【そうそう】	①物事のしはじめ。創始。創業。くさわげ。また、事業を起こしはじめること。②神社、寺院、塔堂などを初めて建立すること。
宝算	【ほうさん】	天皇の年齢。聖寿。
営営	【えいえい】	利を求めて努めるさま。せっせと励むさま。
緑酒	【りよくしゅ】	緑色に見える（よい）酒。
角逐	【かくちく】	おたがいに競争すること。
該博	【がいぱく】	学問・知識が広く、何にでも通じていること。
消長	【しょうちょう】	物事が衰えて消えるか伸びて盛んになるか、というなりゆき。
雅量	【がりょう】	奥床しく、大らかな度量。
維綱	【いこう】	《「大綱 おおづな」の意から》おおもとになるおきて。
布衣	【ほい】	①庶民着用の布製の衣服。ふい。また、それを着ている者。その身分。②布製の狩衣。
邪径	【じゃけい】	まっすぐでない道。よこみち。正しくない心、また、その行為のたとえにいう。
因業	【いんごう】	頑固で無情なこと。仕打ちのおごいこと。
功伐	【こうばつ】	てがらを立てること。いさお。功績。
落手	【らくしゅ】	①（一する）手紙、物などを受けとること。手に入れること。落掌。②囲碁や将棋で、悪いさし手。悪手。ぽか。
二心	【にしん】	心を二通りに持つこと。
鬱勃	【うつぼつ】	意気が盛んにわき起こるさま。こもった気が盛んに出るさま。

入定	【にゅうじょう】	仏語。禅定(ぜんじょう)の境地にはいること。心を統一集中させて、無我の境地にはいること。
季世	【きせい】	力の衰えた時代。末期。
妄誕	【もうたん】	でたらめ。
中興	【ちゅうこう】	衰えていたのを、ふたたび繁栄させること。
覆載	【ふうさい】	① 天が万物を覆(おお)い、地が万物を載せること。ひいて、天地や君主の恩恵をいう。② 転じて、天地。
塗抹	【とまつ】	ぬりつけること。なすりつけること。塗布。比喻的に、都合の悪いことなどを覆い隠すこと。
六合	【りくごう】	天地と四方。宇宙。
旅次	【りょじ】	旅の宿り。「一を重ねて」。また、旅行の途中。
危座	【きざ】	きちんとすわること。正座。端座。
有司	【ゆうし】	役人。
過怠	【かたい】	とが、あやまち、おこたりなど軽微な犯罪、およびそれへの刑罰。
展墓	【てんぼ】	墓参り。
狭斜	【きょうしゃ】	花柳界の異名。
馬匹	【ばひつ】	(一匹、二匹と数えるところから)うま。
還俗	【げんぞく】	僧が僧籍を離れて、俗人にかえること。
王父	【おうふ】	死んだ祖父を敬っていう語。⇔王母。
沈吟	【ちんぎん】	① しずかにくちずさむこと。② 思いにふけること。考え込むこと。③ 落ちこむこと。困窮すること。
令名	【れいめい】	よい評判。名声。
忘憂	【ぼうゆう】	心配事を忘れ去ること。転じて、酒の異称。
風袋	【ふうたい】	① はかりで物を量る時の、その品物の容器・袋・箱・上包みなど。② うわべ。見掛け。
間然	【かんぜん】	～する所がないの形で、あれこれと非難する欠点がない。
底止	【ていし】	行きづまりまで行きついてやむこと。
文身	【ぶんしん】	いれずみ。
車軸	【しゃじく】	① 車の軸。よこがみ。② (一する)(雨滴の太さが車の軸ほどもあるという意から)雨あしの太い雨が降ること。大雨が降ること。
甘酸	【かんさん】	① あまずい。② うっとりとした気持と、感傷的な気持が入りまじって、やるせない感じである。
鮮少	【せんしょう】	非常に少ないこと。わずかなこと。また、そのさま。
庭訓	【ていきん】	家庭での教育のこと。
馬丁	【ばてい】	馬の口につけた縄を持って引く人。
薄暮	【はくぼ】	日没から暗くなるまでの間。はくぼ。

絶佳	【ぜっか】	すぐれていて美しいこと。非常にすぐれていること。また、そのさま。
炎帝	【えんてい】	夏をつかさどる神。また、その神としての太陽。
径庭	【けいてい】	二つのもの間にある隔たり。懸隔。
江湖	【こうこ】	① 川と湖。また、広く水をたたえたところ。特に、揚子江と洞庭湖。② 世の中。世間。天下。
鳥目	【ちょうもく】	一般に金銭の異称。江戸時代までの銭貨は円形方孔のもので、鳥の目に似ているとしての名。
音物	【いんもつ】	贈り物。進物。賄賂。
風色	【ふうしょく】	① 天候。天気。② 風光。風景。景色。③ ようす。ありさま。ふぜい。
怨望	【えんぼう】	うらんで不平をいやくこと。うらむこと。
推参	【すいさん】	招かれもしないのに自分からおしかけていくこと。さし出がましいこと。無礼なふるまいをすること。
賞玩	【しょうがん】	風物・事物などのよさを、味わい大事にすること。珍重すること。
泰西	【たいせい】	西洋諸国の称。
楼観	【ろうかん】	物見のたかどの。ものみ。
調伏	【ちょうぶく】	仏教用語。自身の悪心を抑え除き、善心とすること
絶勝	【ぜっしょう】	① きわめてすぐれていること。最もたちまさっていること。② きわめて地勢のよい土地。また、きわめて景色のすぐれた地。
逮夜	【たいや】	「次の日に及ぶ夜」という意味で、仏教では命日や初七日、四十九日、一周忌や三周忌などの忌日の前夜のこと。
命終	【みょうじゅう】	生命が終わること。死ぬこと。
忘形	【ぼうけい】	① 我を忘れること。物我を超越して、無為自然の道を悟ること。② 容貌、地位、形式などを問題にしないこと。隔てのないこと。
魔魅	【まみ】	人をたぶらかす魔物。また、邪悪な人のたとえ。
散人	【さんじん】	① 役に立たない人。無用の人物。無能な人。② 俗世間を離れて気ままに暮らす人。
従容	【しょうよう】	おちついた、ゆとりのある様子。
末葉	【まつよう】	① 末孫。末裔。後裔。ばつよう。② 末の時代。末世。末代。③ 末年。ある区切りの終わりに当たるころ。④ 物事の大事でない部分。
参商	【しんしょう】	別れ別れになった者同士が、なかなか再会できないことのたとえ。
遊子	【ゆうし】	家を離れて他郷にいる人。旅人。
献替	【けんたい】	主君をたすけて、善をすすめ悪を捨てさせること。物事の可否を言上すること。
疎食	【そし】	粗末な食物。粗食。菜食。そしい。そしいい。
丹青	【たんせい】	① 赤の絵具の材料になる石と青の絵具の材料になる土。また、赤い色と青い色。② 転じて、絵具。絵具の色。
紹述	【しょうじゅつ】	前人の業をうけついで物事を行ない、その精神を明らかにすること。
金員	【きんいん】	金銭の員数。金額。また、金銭。
物故	【ぶっこ】	人が死ぬこと。死去。ぶっこ。

手沢	【しゅたく】	器物に付着した手の触れた跡のつや。しばしば用いるためについた手あか。転じて、故人が側近く置いて愛用したもの。
懸河	【けんが】	① 傾斜が急で水が滝の落ちるように早く流れる川。奔流。急流。早瀬。② 弁舌のよどみのないさまのたとえ。
私淑	【ししゅく】	直接の教えは受けないが、ひそかにその人を先生だと考えて尊敬し、模範として学ぶこと。
遺芳	【いほう】	① あとまでのこるかおり。遺薫。② 後世にのこる名誉。業績。⇔遺臭(ゆいしゅう)。③ 後世にのこる筆跡。遺墨。
値遇	【ちぐう】	縁あってめぐりあうこと。特に、仏縁あるものにめぐりあうこと。
配流	【はいる】	刑罰の一つで、罪人を辺境や島に送る追放刑。
参酌	【さんしゃく】	他のものを参考にして長所を取り入れること。
多端	【たたん】	複雑で多岐にわたっていること。特に、人や用事の多いこと。また、そのさま。多忙。多事。
足恭	【すうきょう】	うやうやしきの度が過ぎること。また、おもねりへつらうこと。しゅきょう。すきょう。
点額	【てんがく】	額にきずついて帰ること。転じて、試験に落第すること。
拳止	【きよし】	たちいふるまい。
商議	【しょうぎ】	話しあうこと。相談すること。協議。評議。
投宿	【とうしゅく】	旅宿に泊まること。やどをとること。宿泊。
誰何	【すいか】	① だれであるか姓名の不明なこと。何人(なにびと)。② (一する) 声をかけて名を問いただすこと。人を呼びとがめること。
不軌	【ふき】	法にそむくこと。おきてを守らないこと。また、謀叛を企てること。反逆。
塞源	【そくげん】	おおもとをふさぐこと。
術数	【じゅっすう】	① 陰陽・五行・ト占・式占・占候・観相などの諸術の総称。② はかりごと。計略。謀計。術策。
入寂	【にゅうじゃく】	仏語。寂滅にはいること。特に、僧侶が死ぬこと。
逐鹿	【ちくろく】	① 鹿を追うこと。② 帝位または政権、地位などを得ようと争うこと。③ 議員選挙などで、立候補して争うこと。
肖似	【しょうじ】	よく似ること。酷似。
翼翼	【よくよく】	① 物事のさかんなさま。多いさま。② 整っているさま。美しいさま。③ 敬いつつしむさま。また、びくびくするさま。
旗亭	【きてい】	酒場。酒楼。料理屋。また、宿屋。旗店。
遡源	【そげん】	おおもとにまでさかのぼること。また、根本をきわめること。
冠絶	【かんぜつ】	比べるものがないくらい、非常にすぐれていること。飛びぬけてすぐれていること。卓絶。
消夏	【しょうか】	夏の暑さをしのぐこと。
刑余	【けいよ】	① かつて刑罰を受けたこと。また、その人。前科。② 特に中国で宮刑を受けた人。宦官(かんがん)。
太虚	【たいきょ】	近代中国の僧。
函南	【となん】	大きな事業を企てることのたとえ。
隔心	【かくしん】	心にへだてがあること。うちとけないこと。よそよそしいこと。また、その心。隔意。きゃくしん。

悪所	【あくしょ】	①山道・坂道などの険しい所。難所。②江戸時代、遊里と芝居町をさしていった語。③現世の悪業のむくいによって死後行くところ。
淫雨	【いんう】	いつまでも降り続く雨。長雨。霖雨(りんう)。
袖珍	【しゅうちん】	袖(そで)の中にはいるほどの小型のもの。ポケット型のもの。書籍についていい、多く他の語と複合して用いる。
流光	【りゅうこう】	月日のたつこと。光陰の移りゆくこと。
味爽	【まいそう】	夜のあけがた。夜が明けかかっているとき。あかつき。未明。昧旦。
錦地	【きんち】	①風光明媚な美しい土地。②相手を敬って、その居住地をいう語。貴地。御地(おんち)。
暗合	【あんごう】	期せずして一致すること。偶然の一致。
螢窓	【けいそう】	苦学して書を読む室。書齋。
万乗	【ばんじょう】	1万台の兵車のこと。
鶏鳴	【けいめい】	①にわとりが鳴くこと。また、その鳴き声。「鶏鳴暁を告げる」②一番どりの鳴くころ。夜明け。明け方。
膚浅	【ふせん】	あさはかなこと。また、そのさま。浅薄。膚薄。
彩管	【さいかん】	絵を描くのに用いる筆。絵筆。画筆。
挙措	【きょそ】	①(一する)あげることと置くこと。特に、官職・役目を与えることと免じること。任免。②たちいふるまい。
揚言	【ようげん】	声を大にして言うこと。公然と言いふらすこと。また、その言葉。「新時代の到来を一する」
無音	【ぶいん】	①挨拶をしないこと。ことわりもなく行なうこと。ひそかにすること。②久しく音信をしないこと。③無言。④不調法。
探勝	【たんしょう】	景勝の地をたずねて、その景色を味わうこと。
膳羞	【ぜんしゅう】	料理。ごちそう。
余慶	【よけい】	①功德の報いによって起こる吉事。②おかげ。余光。余薫。
枕席	【ちんせき】	①ねどこ。寝具。②寝室。ねや。また、夜の伽(とき)。枕藉。
比周	【ひしゅう】	①私利を動機とする仲間づきあいと、公平であまねく親しいつきあい。②徒党を組むこと。悪い目的をもってぐるになること。
遺賢	【いけん】	官吏にならないで民間にいる有能な人物。広く認められないでいる立派な人。
濟美	【せいび】	美德をなすこと。子孫が父祖の遺業をついで、よい行ないをすること。
鬼籍	【きせき】	死んで記入される。死亡する。
巨歩	【きよほ】	①おおまたに歩くこと。力強く歩くこと。②(比喩的に用いられて)大きな功績。すぐれた業績。
賊心	【ぞくしん】	①ぬすみをしようとする気持。盗心。②反逆しようとする気持、考え。反逆心。③害をあたえようとする心。害心。
耕稼	【こうか】	田畑を耕し農作物を植えること。耕作。
知音	【ちいん】	本当に自分のことをわかってくれる相手。心の通じ合った親友。また、広く、友人や知り合い、恋人などのこと。
右筆	【ゆうひつ】	祐筆とも書き、筆で文を書くこと。また武家の職名で貴人に侍し、文書を書く役目の人。
鉛華	【えんか】	おしろいのこと。昔、鉛を原料にした。鉛白 えんぱく。鉛粉。

風騷	【ふうそう】	詩文を作り楽しむこと。風流。風雅。
団円	【だんえん】	① まるいこと。② (形動) 人々が和合すること。円満であること。③ 欠けることなく完全に終わること。終わり。結末
付会	【ふかい】	こじつけること。無理に関係づけること。
雲漢	【うんかん】	① 天の河をいう。② 大空。
稽首	【けいしゅ】	頭を深くたれて地につけること。うやうやしく礼をすること。
臨池	【りんち】	書法、書道をいう語。また墨池ともいう。
活計	【かつけい】	① 暮らしを営むこと。生計。② 豊かなくらしをすること。贅沢(ぜいたく)、享楽、気晴らしをして楽しむさま。
遷化	【せんげ】	(この世の教化を終えて、その教化を他の世に移すの意) 仏語。高僧、隠者などが死ぬこと。入滅。円寂。
禅譲	【ぜんじょう】	君主が、その地位を血縁者でない有徳の人物に譲ること。
薬餌	【やくじ】	病人にとっての、薬と食物。また、薬。
緩頰	【かんきょう】	顔色をやわらげること。また、顔色をやわらげておだやかに話すこと。
片片	【へんぺん】	① きれぎれなさま。ひらひらと漂うさま。② おもみのないさま。うすっぺらなさま。取るに足りないさま。
素衣	【そい】	色も模様もない白い衣服。しろぎぬ。
邸第	【ていだい】	やしき。邸宅。第宅。
九重	【きゅうちよう】	九つ重なっていること。また、幾重にも重なっていること。
要撃	【ようげき】	待ち伏せて攻撃すること。
既望	【きぼう】	祈り願うこと。強く願望すること。
陸続	【りくぞく】	次々と連なり続くさま。
田獵	【でんりよう】	野に出て狩りをすること。また、その狩り。狩獵。
得度	【とくど】	仏教における僧侶となるための出家の儀式。
頓宮	【とんぐう】	仮の宮、一時的な宮のこと。
王佐	【おうさ】	王を助けること。帝王の補佐。
撃壤	【げきじよう】	足で地をうつ。拍子をとる。
柱石	【ちゅうせき】	柱を受ける土台石。沓石(くついし)。礎石。
弾指	【だんし】	人さし指か中指の先を親指の腹にあてて音を立てること。敬虔や歓喜、あるいは警告や許可などの意を表わす。
奇貨	【きか】	① 珍しい品物。立派な人材。② 利用すれば思いがけない利益が得られるかもしれない事柄、事情、機会。
壮丁	【そうてい】	成年に達した男子。血気さかんな働きざかりの男子。壮年の男子。
借問	【しゃもん】	ためしに問うこと。ちょっと尋ねてみること。
化育	【かいく】	天地自然が万物を生み育てること。

博搜	【はくそう】	ひろくさがしもとめること。特に、ある問題に関して文献・資料などをひろくさがしもとめること。
脂粉	【しふん】	インコの体からでる羽根の粉。
赤縄	【せきじょう】	夫婦の縁を結ぶ赤い縄。
涯際	【がいさい】	物事や土地の限界。かぎり。はて。
話柄	【わへい】	話題。話のたね。
区区	【くく】	それぞれ別々に区切ってあること。それぞれに異なること。
乙夜	【いつや】	およそ今の午後9時ないし10時から2時間をいう。
乾徳	【けんとく】	天の徳。天子の徳。天皇の徳。
訃音	【ふいん】	死亡の通知。訃報。ふおん。
機宜	【きぎ】	あることにちょうど適した時機。時機に応じていること。
摯実	【しじつ】	心がこもりまじめなさま。誠実。
秋水	【しゅうすい】	秋のころの澄みきった水。
疾視	【しっし】	憎しみをもって見ること。
要津	【ようしん】	交通・商業上の重要な港。
徒費	【とひ】	金銭・時間・労力などをむだに使うこと。また、その使ったもの。
乳臭	【にゅうしゅう】	幼く未熟なこと。また、そのさま。年少で経験の浅いことをあざけっていう。
援引	【えんいん】	① 他人の文章や事例を引いて自分の説の証拠とすること。援用。引用。② 引き寄せること。味方とすること。
休戚	【きゅうせき】	よいことと悪いこと。
麗沢	【れいたく】	二つの沢が水脈を通じてうるおし合うこと。友人どうし助け合って勉学に努めること。
白面	【はくめん】	① 素顔。② 顔色の白いこと。色白の顔。多く、若い男にいう。
致仕	【ちし】	① 官職を退くこと。また、退官して隠居すること。② 《古く、中国で、70歳になると退官を許されたところから》70歳の異称。
濫吹	【らんすい】	① 無能の者が才能のあるように装うこと。実力がなくて、その位にいること。② 秩序を乱すこと。乱暴。狼藉。
種芸	【しゅげい】	作物や草木を植えつけること。
通款	【つうかん】	味方を裏切って、ひそかに敵に通じること。内通。
曲尽	【きょくじん】	ことこまかに事情を説きつくすこと。
仮借	【かしゃく】	漢字の分類法である六書(りくしょ)の一つ。
卒去	【そっきょ】	令制で、四位・五位の官人および王・女王が死去すること。
契合	【けいごう】	① 割符を合わせること。② 割符を合わせたように、ふたつのものがぴったりと合うこと。それぞれが統一融合すること。
年齒	【ねんし】	とし。よわい。年齢。

緒言	【しょげん】	まえがき。序言。
有心	【うしん】	思慮・分別の深いこと。
冲天	【ちゅうてん】	天高くのぼること。人の威勢などの激しいことにいう。
飛輪	【ひりん】	太陽の異称。
府庫	【ふこ】	財物・文書などを入れておく蔵。
禁裏	【きんり】	天皇の住居。皇居。禁中。御所。
消光	【しょうこう】	月日を過ごすこと。光陰をおくすること。
妙諦	【みょうてい】	ぐれた真理。また、奥義。秘訣。みょうたい。
延見	【えんけん】	呼び寄せて面会すること。引き入れて対面すること。引見。接見。
四顧	【しこ】	四方を見回すこと。
糾合	【きゅうごう】	ある目的のもとに人々を寄せ集め、まとめること。
旦夕	【たんせき】	① 朝と晩。朝夕。旦暮。朝暮。② (副詞的に用いて) つねづね。しじゅう。平生。③ 短期間。
関頭	【かんとう】	物事の重大なわかれめ。岐路。また、重要な点。
咽喉	【いんこう】	① 咽喉と喉頭。のど。② (転じて) 重要な通路。必ず通らなければならない場所。大切な場所。
供御	【くご】	おもに天皇の飲食に供する食膳(しょくぜん)をさすが、上皇、皇后、皇子らの食事をも含む。
半白	【はんぱく】	白髪が半分まじっていること。また、その毛髪。
露命	【ろめい】	露のようにはかない命。
国手	【こくしゅ】	① (国を医する名手の意) 名医。また、医師を敬っていう語。国医。② すぐれた名人。特に囲碁の名人。
企及	【ききゅう】	計画を立て努力して到達すること。また、肩を並べること。匹敵すること。
青山	【せいざん】	① 樹木などが生い茂って青々としている山。青嶂(せいしょう)。青峰。② 骨を埋める土地。墳墓の地。
昆弟	【こんてい】	兄と弟。兄弟。
豚児	【とんじ】	自分の息子をへりくだっていう語。
先途	【せんど】	① これからさき。進んで行くさき。なりゆき。② 結局のところ。ゆきつくところ。最期。また、人の死。
警抜	【けいぱつ】	すぐれてぬきんでていること。着想がすぐれていること。また、そのさま。
火宅	【かたく】	煩惱(ぼんのう)や苦しみに悩まされて安らかにできないことを、火災にあった家屋に例えたもの。
食言	【しょくげん】	前に言ったことと違うことを言ったりしたりすること。
凄切	【せいせつ】	身にしみて悲しく、物寂しいこと。また、そのさま。
梗概	【こうがい】	あらまし。あらすじ。大略。大要。
伯叔	【はくしゅく】	兄と弟。また、父母の兄と弟。

離間	【りかん】	仲たがいをさせること。互いの仲を裂くこと。
襟懐	【きんかい】	胸のうち。思い。考え。胸懐。
坊間	【ぼうかん】	町の中。まちなか。市中。世間。
帰服	【きふく】	心を寄せてつき従うこと。支配下に入ること。服従。帰順。
寿考	【じゅこう】	長生きすること
弄瓦	【ろうが】	女子が生まれること。⇔弄璋(ろうしょう)
然諾	【ぜんだく】	引き受けること。承諾。
矯激	【きょうげき】	なみなみでなく激しいこと。過激な言動にはしること。また、そのさま。
斥候	【せっこう】	敵の状況や地形などを探ること。
辱知	【じょくち】	《知をかたじけなくする意》知り合いであることを、へりくだってという語。
龜鑑	【きかん】	手本・模範となるもの
岳父	【がくふ】	配偶者の父親のような、義理的な関係の上での父親を指す表現
京畿	【けいき】	宮城、皇居をその域内にもつ地。転じて、みやこ。京師。
胴欲	【どうよく】	非常に欲の深いこと。また、そのさまやそのような欲望。
破鏡	【はきょう】	① こわれた鏡。破れた鏡。② 欠けた月。かたわれ月。③ 夫婦が離縁をすること。
徴証	【ちょうしょう】	ある結論を引き出すのに役立つ証拠。
版図	【はんと】	一国の領域。領土。また一般に、勢力範囲。
綰角	【そうかく】	あげまき。古代の髪形的一种。美豆良(みずら)の変形。
弥漫	【びまん】	ある風潮、気分などが一面に広がること。
書林	【しゅりん】	書物がたくさんある所のこと。
納采	【のうさい】	皇室の儀式のひとつ。皇族が結婚するにあたって行われるもので、結納の起源。
諸式	【しよしき】	必要ないろいろの品物のこと。
太上	【たいじょう】	至上のもの。きわめてよいもの。最良。
曾遊	【そうゆう】	以前に訪れたことがあること。
生面	【せいめん】	顔をののしってという語。恥を恥と思わない顔。
股慄	【こりつ】	あまりの恐ろしさに股がふるえること。非常に恐れおののくこと。
曆数	【れきすう】	太陽や月の運行を測って曆を作る技術。
台閣	【たいかく】	① たかどの。楼閣。② 国政をとる所。中央政府。内閣。政庁。
公界	【くがい】	人々が共存する生活の場。

南面	【なんめん】	① 南に面すること。南の面。南側。② (中国で天子は南に面して臣下に対面) 君主の位につくこと。
分限	【ぶげん】	物事の程度や分量、物事を行う能力や限度、あるいは身分の程度や分際をいう。
文藻	【ぶんそう】	① 文章、詩文のあや。② 文章の才能。文才。
疎明	【そめい】	いいわけ。弁明。
向背	【こうはい】	従うこととそむくこと。従ったりそむいたりすること。きょうはい。
権門	【けんもん】	官位が高く権勢の盛んな家柄。また、その家。
苦患	【くげん】	仏語。地獄におちて受ける苦しみ。転じて、一般に苦しみや悩み。苦悩。
管掌	【かんしょう】	つかさどること。監督して取り扱うこと。
竜顔	【りゅうがん】	天子の顔。天顔。りょうがん。
細作	【さいさく】	忍んで敵の様子をさぐる者。忍びの者。間者。
景仰	【けいこう】	徳を慕い仰ぐこと。人格の高い人をおおぎ慕うこと。
膝下	【しっか】	① ひざのした。ひざのそば。ひざもと。② 父母、目上の人の養護のもと。③ 手紙などで、父母などの宛名の脇付に用いる語。
氷人	【ひょうじん】	婚礼の媒酌人。なこうど。
凡百	【ぼんびゃく】	(「ぼんひゃく」とも) いろいろのものや人。もろもろ。かずかず。諸種。はんびゃく。
身代	【しんだい】	個人、または一家が有する、すべての財産。
山妻	【さんさい】	田舎育ちの妻という気持ちで、自分の妻をへりくだってという語。
減殺	【げんさい】	減らして少なくすること。また、減ること。
宛然	【えんぜん】	そっくりそのままであるさま。よく似ているさま。よく当てはまるさま。
供奉	【ぐぶ】	物を供給すること。供えること。供え奉ること。
羅布	【らふ】	連なり並ぶこと。また、あまねく行き渡ること。
不日	【ふじつ】	日数をあまりへないこと。すぐであること。副詞的にも用いる。
客気	【かっき】	物事にはやる心。血気。
室家	【しっか】	いえ。住居。
青眼	【せいがん】	自分の好む人を迎える時の、うれしい心のあらわれた目もと。
話頭	【わとう】	話をするきっかけ。話のいとぐち。
温習	【おんしゅう】	繰り返し練習すること。おさらいをすること。おさらい。復習。
半寿	【はんじゅ】	数え年で81歳。また、その祝い。
志学	【しがく】	① 学問にこころざすこと。② (「論語 - 為政」の「吾十有五而志于学一」の文から) 一五歳をいう。
通事	【つうじ】	① 通訳。② 間に立って取り次ぐこと。また、その人。

自今	【じこん】	今からのち。今後。以後。
陵遲	【りょうち】	①山地や丘陵がしだいに低くなること。陵夷。②物事がしだいに衰えすたれること。
索漠	【さくばく】	心を満たすものがなく、もの寂しく感じるさま。荒涼として気のめいるさま。
幽囚	【ゆうしゅう】	人を捕えてとじこめること。人が捕えられて、とじこめられること。
物怪	【もつけ】	① 思いがけないこと。意外なこと。不思議なこと。あやしいこと。② けしからぬこと。不吉なこと。また、そのさま。
周章	【しゅうしょう】	あわてふためくこと。うろたえること。
品彙	【ひんい】	種類別にまとめること。分類。また、そのわけまとめたもの。
東宮	【とうぐう】	皇太子の居所。転じて皇太子の称ともなる。
回天	【かいてん】	時勢を一変すること。衰えた勢いを盛り返すこと。
潰走	【かいそう】	戦いに惨敗して、秩序なく、逃げること。敗走。
海内	【かいだい】	四海の内。国内。天下。世界。かいない。
通曉	【つうぎょう】	① 夜を通して暁に至ること。夜どおし。徹夜。② くわしく知りさとること。深く知りぬいていること。
悪阻	【おそ】	いわゆる“つわり”
内証	【ないしょう】	自らの心の中で覚ること。また悟りそのものを表す場合もある。
泉下	【せんか】	死後、人の行くところ。あの世。
娘子	【じょうし】	娘を、親しんで、あるいは軽んじていう語。
九天	【きゅうてん】	① 中国で、天を九つの方位に分けた称。② 高い天。天上。大空。
覆滅	【ふくめつ】	完全に滅びること。また、完全に滅ぼすこと。
具陳	【ぐちん】	くわしく述べること。細かに報告すること。
高踏	【こうとう】	俗な気持ちを捨てて、気高く身を処すること。
警醒	【けいせい】	① 警告して人の迷いをさますこと。迷いを悟らせること。② 眠りをさますこと。目をさませること。
儀表	【ぎひょう】	手本となること。また、そのもの。模範。手本。
首級	【しゅきゅう】	討ちとった敵の首。しるし。
落飾	【らくしよく】	高貴な人が髪をそり落として仏門に入ること。落髪。
声価	【せいか】	世のきこえ。評判。名声。ほまれ。
較著	【こうちょ】	いちじるしいこと。はっきりしていること。また、そのさま。顯著。
招提	【しょうだい】	仏教で、寺院。道場。
争友	【そうゆう】	忠告をしてくれる友人。よく意見をしてくれる友。
海容	【かいよう】	海のように広い寛容な心で、相手の過ちや無礼などを許すこと。主に手紙文で用いる。

狙公	【そこう】	猿を飼う人。猿回し。
察察	【さつさつ】	① 非常に細かいところまで物事を明らかにするさま。また、わずらわしく細かなさま。② 潔白なさま。邪念がなく澄んでいるさま。
沈潜	【ちんせん】	① 水の底近くに沈みかくれること。② 心を落ち着けて深く思索すること。また、深く没入すること。③ 沈着で思慮深いこと。
漂母	【ひょうぼ】	食を恵む老女。
断金	【だんきん】	金をも切断するほど友情が強固に結ばれていること。非常に厚い友情。きわめて親密な交際。
蜂腰	【ほうよう】	① 女性の、ハチの腰のようにくびれた腰。② 漢詩の八病の一。
大塊	【たいかい】	大きなかたまり。大地。地球。また、造物主。
黄白	【こうはく】	黄金と白銀。転じて、金銭。
振作	【しんさく】	人の気持ちや物事の勢いを盛んにすること。奮い起こさせること。
利達	【りたつ】	身分や地位が高くなること。立身出世。栄達。
意趣	【いしゅ】	恨みを含むこと。また、人を恨む気持ち。
生硬	【せいこう】	① 世なれないで頑固(がんこ)なこと。ぶこつなこと。② 文章などが未熟でかたい感じのすること。
倉皇	【そうこう】	あわてふためくさま。あわただしいさま。
推戴	【すいたい】	団体などの長としてその人をおかえること。
陶冶	【とうや】	① 陶器をつくることと、鋳物をつくること。② 人の性質や能力を円満に育て上げること。育成。
一斑	【いっぱん】	全体のうちの一部分。
筆耕	【ひっこう】	筆を使って文字を書くことによって報酬を得ること。
駒隙	【くげき】	人生は短く、歳月は早く過ぎること。
擬議	【ぎぎ】	① よく思いめぐらすこと。さまざまに論議すること。② 躊躇 ちゅうちょ すること。ためらうこと。
窮理	【きゅうり】	物事の道理、法則をきわめること。
専横	【せんおう】	好き勝手に振る舞うこと。また、そのさま。わがまま。
卵塔	【らんとう】	台座上に卵形の塔身をのせた墓石。禅僧の墓石に多く用いられる。
等閑	【とうかん】	深く心にとめないさま。本気でないさま。いいかげん。通りいっぺん。かりそめ。
四大	【しだい】	地・水・火・風の四元素。または、人間の肉体。身体。
剖判	【ぼうはん】	① 天地などの分かれ開けること。開闢(かいびやく)。② はっきりと区別がつくこと。
兄事	【けいじ】	兄のように敬い仕えること。
逸足	【いっそく】	① 足のきわめて速いこと。② すぐれた才能を有していること。逸材。
私曲	【しきよく】	不正な手段で自身だけの利益をはかること。利己心があって正しくないこと。
扞芝	【はいし】	面会することの謙譲語。扞顔。扞眉。

造化	【ぞうか】	①天地万物を創造し育てること。また、それをなす者。造物主。「一の神」②造物主によってつくられたもの。自然。
休祥	【きゅうしょう】	よい前兆。めでたいことのあるし。吉兆。
傾城	【けいせい】	絶世の美女。傾国。遊女。近世では特に太夫・天神など上級の遊女をさす。
畏日	【いじつ】	夏の日。夏の炎天の日。⇔愛日。
同甲	【どうこう】	同じ年齢。同年。
方図	【ほうず】	物事のかぎり。きり。際限。
食頃	【しょっけい】	食事をするぐらいの短い時間のこと。たちまちにの意。
閑歴	【えつれき】	年月など時間が過ぎ去ること。経過すること。
草屋	【そうおく】	草ぶきの粗末な家。質素な家。わらや。また、自分の家を卑下してもいう。
薬石	【やくせき】	禅宗で、夕食のこと。
祝髪	【しゅくはつ】	髪を切り落とすこと。出家したしるしに頭髪をそること。
庶子	【しょし】	正妻でない女から生まれた子。
登仙	【とうせん】	①天に登って仙人となること。また、仙人。②貴人を敬って、その死去をいう語。
洞房	【どうぼう】	奥深い所にある部屋。寝室。閨房。
有待	【うだい】	仏語。人間のからだ。衣食などの助けによって初めて保たれるところからいう。
穉婆	【おんば】	産婆。とりあげばば。
金打	【きんちょう】	堅い約束をすること。
浪死	【ろうし】	むだに死ぬこと。犬死に。徒死。
慮外	【りょがい】	思いがけないこと。また、そのさま。
非違	【ひい】	法に違反すること。違法。違法行為。
廃立	【はいりつ】	臣下が君主を廃して他の人を君主に立てること。
木強	【ぼっきょう】	物事に不慣れで、言動などがぎこちない。しなやかでない。ぶこつである。
来者	【らいしゃ】	①来る人。たずねてくる人。②後から生まれてくる人。未来の人。後進。③これから先のこと。将来のこと。未来。
寧日	【ねいじつ】	穏やかで無事な日。安らかな日。
紅涙	【こうるい】	①血の涙。悲嘆の涙をたとえていう語。血涙(けつるい)。②美人の涙。女性の涙。
蚕食	【さんしょく】	他の領域や物などを片端からだんだんと侵してゆくこと。
後架	【こうか】	禅寺で、僧堂の後にかけわたした洗面所。
鼓吹	【こすい】	①つづみを打ち、笛を吹くこと。②元気づけ、はげますこと。勇気づけること。鼓舞。③ひろく宣伝すること。ふきこむこと。
諧和	【かいわ】	やわらいで親しみあうこと。調和。

客死	【かくし】	他国や旅先などで死ぬこと。
潤筆	【じゅんぴつ】	書や絵をかくこと。
隆準	【りゅうせつ】	鼻柱の高いこと。また、高い鼻。
遅明	【ちめい】	夜がまさに明けようとする頃。早朝。
相即	【そうそく】	仏語。二つのものが差別なく一つに融けあっていること。煩惱即菩提などの関係。
雌黄	【しおう】	石黄の古称。文字に誤りがあるときにはこれを使ったことから、文章を改竄したり、批評したり、添削したりすること。
出藍	【しゅつらん】	出たものが、その出るもととなったものよりも、かえってまさっていること。
垂死	【すいし】	今にも死にそうであること。瀕死(ひんし)。
薦席	【せんせき】	こも、また、むしろの敷物。
煩累	【はんるい】	わずらわしくめんどうな物事。
枢機	【すうき】	物事の肝要な所。かなめ。要点。
須要	【しゅよう】	しなければならないこと。なくてはならないこと。また、そのさま。必須。
隻眼	【せきがん】	すぐれた識見。また、独自の見識。
隣保	【りんぽ】	となり近所の家々や人々。また、となり近所どうして助け合うこと。
校勘	【こうかん】	比較してかながえること。
留別	【りゅうべつ】	旅立つ人が後に残る人に別れを告げること。
随喜	【ずいき】	他人のなす善を見て、これにしたがい、喜びの心を生ずること。転じて、大喜びをすること。
不予	【ふよ】	心中おもしろくなく思うこと。不快。
銃後	【じゅうご】	①小銃の台じり。②銃を執る人。
権衡	【けんこう】	はかりのおもりとさお。はかり。つりあい。均衡。
攻玉	【こうぎよく】	玉を磨くこと。また、知徳を磨くこと。
匹偶	【ひつぐう】	夫婦となること。また、夫婦。つれあい。配偶。
詮議	【せんぎ】	他の議案より先に審議すること。
向来	【きょうらい】	以前から今まで。これまで。従来。
看經	【かんきん】	経文を黙読すること。
親筆	【しんぴつ】	その人が自身で書いた筆跡。
往還	【おうかん】	行き帰り。ゆきき。往来。往復。
宿雨	【しゅくう】	連日降りつづく雨。ながあめ。
扶桑	【ふそう】	葉が桑の木に似た神木。

関鍵	【かんけん】	門のかんぬきと扉のかぎ。
齐家	【せいか】	家庭をおさめ整えること。
蓋棺	【がいかん】	ひつぎにふたをすること。人の死をいう。
却行	【きゃっこう】	後ろへしりぞくこと。あとずさり。
横死	【おうし】	殺害されたり、不慮の災難にあたりして死ぬこと。
白兵	【はくへい】	抜き身の刀。刀・剣・槍などの武器。
光来	【こうらい】	他人を敬って、その来訪をいう語。
半玉	【はんぎょく】	まだ一人前でない芸者。
反哺	【はんぼ】	親に恩を返すこと。
尚齒	【しょうし】	老人をうやまうこと。高齢者を尊敬すること。
門地	【もんち】	家柄のこと。
肝胆	【かんとん】	① 肝と胆。肝臓と胆嚢(たんのう)。② (転じて) 心の中。心の底。また、誠の心。③ (一する) 懸命になって物事をする事。
眉宇	【びう】	眉(まゆ)を目の軒と見たてていう語) まゆのあたり。まゆ。
浮説	【ふせつ】	根拠のないはなし。いいかげんなことば。また、根拠のないうわさ。風説。
沙門	【しゃもん】	出家した僧侶のこと。
雲水	【うんすい】	禅宗の修行僧の一般的呼称。
如去	【によこ】	如来の別称。
逆旅	【げきりょ】	旅人を迎えること。また、その場所。
別懇	【べっこん】	特に懇意であること。特に親しく心やすいさま。
恩典	【おんてん】	ありがたい処置。情けある取り計らい。
口腹	【こうふく】	① 口と腹。② のみくい。飲食。また、生活
緑林	【りょくりん】	青々とした林。みどりの林。
薪水	【しんすい】	たきぎを拾い水をくむこと。煮炊きをすること。炊事。
冥冥	【めいめい】	① 暗いこと。ほの暗いさま。また、はっきりしないでわかりにくいさま。めいめい。② ゆっくりしているさま。
鶴林	【かくりん】	釈迦入滅の場所。転じて釈迦の死。
骨法	【こっぽう】	当身技を主体とする徒手武術。
比倫	【ひりん】	ならぶもの。比類。
踪跡	【そうせき】	足跡。あとを追うこと。事が行われたあと。
韻致	【いんち】	風雅な趣。風韻。風致。

才幹	【さいかん】	物事を成し遂げる知恵や能力。手腕。
与知	【よち】	ある事柄にかかわること。関係すること。
寒士	【かんし】	貧しい人。
胸臆	【きょうおく】	あて推量すること。転じて、あいまいでいい加減な考えやことばをいう。
師旅	【しりょ】	軍隊。また、戦争。
便便	【べんべん】	何もせずにあらずらに時を過ごすさま。
亡状	【むじょう】	無礼な言動。無作法な行為。無状。